

これまでのスポーツ審議会・スポーツ基本計画部会における各委員の指摘事項

諮問理由 第1 関係

○未来社会における豊かな Sport in Life ビジョン

【スポーツへの関わり方】

- ・ **人生 100 年時代**にスポーツはどう貢献すべきか。健康や介護予防だけではなく、**スポーツの楽しみ方、意義**を考えていく必要がある。後期高齢者にも着目した人生 100 歳時代の体力保持と生きがいづくりが重要になる。
- ・ スポーツというと、どうしても勝ち負けがあり、みんなでやるという印象が強いが、コロナ禍の状況も踏まえて、もっと**気軽に、身軽に一人でも**やれる、そういう身体活動やスポーツに対してももっと関心を持っていく必要があるのではないか。
- ・ 勝利至上主義からの脱却が必要。長期的な方向性としては、スポーツが上手になるとか、強くするというところに一義的な価値を置くのではなく、**とにかくスポーツを好きになってもらう**ということ掲げるべきではないか。
- ・ **文化としてのスポーツ**を根付かせるとはどのようなことか、未だ根強いイベント・大会中心のスポーツの捉え方をどのようにして**生活の中のスポーツ (Sport in Life) に変えていく**のか、よって立つコンセプトをしっかりと掲げる必要がある。
- ・ AI・デジタル技術の発展などにより、「生きる」という意味の本質が大きく変容する可能性があり、そうした中で、**人々にとってのスポーツの意義**は一層変わってくるのではないか。
- ・ 男女の性や年齢等を問わない、**ユニバーサルなスポーツ**が開発されていくべきである。
- ・ 全世代の国民が**ライフステージに合わせて運動・スポーツ習慣を確立**するための施策を実施する必要がある。人々の運動関連リスクを層別化して、各リスクに応じた内容を示すことが必要。

【青少年スポーツ環境の再構築】

- ・ 発達段階にある**子供たちの運動・スポーツ**をどうするのかということは、これからのスポーツの在り方を決める主要な課題。学校段階に分かれた枠組みを超えたスポーツの**発達論に立った青少年スポーツの再編**が必要であり、その上で、指導者、施設や場、大会の問題等を捉えていく視点が必要である。
- ・ 小学生年代はとにかく**スポーツは楽しい**と思えるような、**継続できるような環境づくり**が大切。トーナメント制のシステムでは、勝利至上主義の下で怒りが生じやすく、子供たちは全員が楽しめない、能力の高い選手だけが参加でき、身体能力や運動能力が低い子供たちは取り残されてしまう。
- ・ ドロップアウト、バーンアウトしてしまうことのないように、**卒業のないスポーツライフ**をいかにつくっていくか。日本のスポーツ文化に、とりわけアンダー世代に**いかにリーグ戦文化**を根付かせるかということは非常に大事である。

- ・ 育成年代を各競技で取り合うのではなく、ある年代までは一緒に育てるような**共通プログラム**も必要ではないか。
- ・ **不適切な指導に対しての各団体統一しながら対応を強化**していくことが必要。

○2030 年以降を見据えたスポーツ政策の在り方

【東京 2020 大会のレガシーの継承・発展】

- ・ 東京 2020 大会のレガシーの一つは**共生社会**である。様々な差別をなくし、多様性を確保しながら、共生社会を実現していくことに、スポーツ界が率先して取り組んでいくことが必要。
- ・ **多様性と調和**、ダイバーシティとインクルージョンという観点が重要である。
- ・ 社会が多様化する中、それぞれに分かれたものが連携・協力するというよりは、もはや一体化して、社会全体がスポーツに向かって**新しいプラットフォーム**をつくっていく必要が出てきているのではないか。
- ・ レガシーを残すためには、オリンピック・パラリンピックに対する**人々の心の持ちよう**が大切である。この点、なぜオリンピック・パラリンピックをやるのかという議論が深まりつつあるところ、こうした動向を的確に踏まえながら、政策の方向性を打ち出していくことが重要である。
- ・ **スポーツ・フォー・トゥモロー**を継続し、成果をしっかりと残していくべき。

【with/post コロナ時代への対応】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の問題については、対処療法に終わることなく、*with/post* コロナの時代において、国、地方、団体がしっかりとした統一の目標を立てて、協調して、**安心・安全にスポーツができる日常に取り戻すための大きな計画づくり**をしていく必要があるのではないか。
- ・ コロナ禍で我々が得たものとしては、**地域の重要性、グローバル化の進展**、そして、**スポーツの原点回帰**である。
- ・ 今後のデジタル技術の拡大の進展への期待がある反面、大きくなっていくであろう**経済格差や情報格差にも対応**していかなければならない。

【少子高齢化・人口減少社会への対応】

- ・ 2040 年には、現在、1978 ある市区町村のうち、約半分の 927 の市区町村が消滅する可能性があるとしてされており、637 の市区町村では一番多い年齢構成が 90 歳以上の女性という社会になることが指摘されている。こうした社会の中で、**地域のスポーツの在り方**をどうやっていくのかということを考えなければいけない。学校規模も小さくなる中で、学校スポーツ、団体スポーツ、障害者スポーツについて、人材面も含め、各地域でどれだけのことが対応できるのか。
- ・ 地域が今抱えている一番大きな課題は少子高齢化であり、地域の人々の絆、団結が薄れてきているが、こうした中で、**スポーツは地域を結びつける大きな一つの要因**となる。地域の人々が集まる場とし

てのスポーツの活用促進を考えていくべき。**社会関係資本（ソーシャルキャピタル）を構築する**という視点で考えることが必要ではないか。

【社会の変化を踏まえたスポーツの価値の再確認・発信】

- ・スポーツが社会の中に受け入れられ、育っていくためには、それが**社会的な価値**を持ち、**様々な社会の問題とも関わり得る**ものであるということを示すという視点が入っていることが大切である。人々の行動変容を促すためには、社会の変化を捉えながら、的確な情報発信と支援が重要。
- ・**スポーツの力を国民にしっかりと伝える**ことができれば、スポーツ実施率の向上はもとより、様々な面での波及効果があり、こうした観点を盛り込んでいくことが必要。
- ・**スポーツの社会的な価値**をどこに求めていくのか、スポーツにはどのような価値があるから広めていくのかというところを、今一度明確にする必要がある。
- ・中長期的な未来に向けて、**スポーツの価値、スポーツの本質とは何か**という視点を持つ必要がある。スポーツは、心身の健康に役立ち、人々の心を触発する力があり、違いを越えて絆を結ぶ、社会の結束、という大きな社会的な価値がある。人と人とのつながりが切れていくような気配が感じられる中であって、これらスポーツの価値、スポーツの価値がどう寄与できるのか、というところを起点に置くことが大切である。
- ・スポーツには、国籍、人種、年齢、ジェンダー等の表層的な差異、あるいは価値観や文化といった深層的な差異、こうした**様々な違いを乗り越える力**がある。

【スポーツによるイノベーションの創出】

- ・**スポーツ団体自らが財源を生み出すイノベーションを創出**することが必要。そのために、経営力強化を図り、スポーツを通じた社会課題の解決による新たな価値の創造や、データ活用による民間企業と連携した新しいサービスの提供、パートナー企業とのスポンサーシップの拡大等を推進することが重要。
- ・**スポーツイノベーションの創出**には、デジタル技術の活用（AI、IoT）、コラボレーション（関係ステークホルダーとの連携）、ガバナンス（コンプライアンス）の3つの要素が重要。
- ・**自己財源確保**のためのスポーツ界の仕組みが一層整備され、**スポーツの職域の拡大**が順次なされていく必要がある。こうしたことが、国民のスポーツの嗜好の拡大や需要に応えることにもつながっていくのではないか。
- ・プロスポーツをはじめとして企業・団体が確実に収益性を生み、その利益を関係者や子供達に還元するという、**循環型サイクル**を構築することに取り組んでいくことで、確実な、多様な財源や資源の安定的な確保につながるのではないか。
- ・世の中の動きから見て、他のアミューズメントよりも進歩が少ない状態にあり、**これからの時代のスポーツ、これまで以上に魅力的なスポーツ**をどのように作っていくかということを考えると、新しい目で見ると、自分たち自身を変えていく力を作っていくということが、より一層必要になってく

るのではないかとと思われる。【再掲】

- ・ **日本のスポーツコンテンツ、プログラム等は、海外に誇れるものであり、戦略的に国際展開していくことが重要。**

【その他の方向性】

- ・ 環境保護や環境保全とスポーツ、カーボンニュートラルの社会の中でのスポーツ等、**SDGsの視点**での検討が必要である。
- ・ 国民が主体となってスポーツを推進していくという視点が大事ではないか。
- ・ **スポーツを通じた国際交流、国際貢献活動とそのための人材育成**は継続すべき。これは日本の**国際社会におけるプレゼンス**を高めていく上でも非常に有効である。
- ・ アスリートの権利を大切にしていく必要がある。
- ・ **スポーツの価値教育**という基盤に立って、スポーツ・インテグリティの問題を扱っていく時期に来ているのではないか。インテグリティ教育、アンチドーピング教育の普及・啓発が重要。
- ・ 2030年以降を見据えたスポーツ政策の在り方という観点で、**SDGsの理念やカザン行動計画等の国際動向**を強く意識した共生社会、格差のない社会に向けたスポーツの在り方、スポーツに立国になるための取組が必要

諮問理由 第2 関係

○障害者、女性、子供、高齢者等、多様な主体の参画

- ・ **多様性と調和**、ダイバーシティとインクルージョンという観点が重要である。【再掲】
- ・ **多様性の前提となる違いを意識**した計画としていくことが大切。
- ・ 男女の性や年齢等を問わない、**ユニバーサルなスポーツ**が開発されていくべきである。【再掲】
- ・ **インクルーシブなスポーツ界**をどう作るかという視点が重要。スポーツ施設について障害者が利用できる割合を100%とすべき。学校体育を見学する障害児を0にすることを目標として掲げるべき。
- ・ 国民体育大会（国民スポーツ大会）等のスポーツ大会について、時代に応じて多様な方が参加しやすい、アミューズメント性も取り込んだスポーツイベントにリニューアルするとともに、これらのスポーツ大会を連携・協働させることにより、**ジュニア世代から高齢者まで切れ目なくスポーツを楽しむ仕組み**を確立していく必要がある。
- ・ 小学生年代はとにかく**スポーツは楽しい**と思えるような、**継続できるような環境づくり**が大切。トーナメント制のシステムでは、勝利至上主義の下で怒りが生じやすく、能力の高い選手だけが参加でき、子供たち全員が楽しめない、身体能力や運動能力が低い子供たちは取り残されてしまう。【再掲】【再掲】
- ・ ドロップアウト、バーンアウトしてしまうことのないように、**卒業のないスポーツライフ**をいかに

つくっていくか。日本のスポーツ文化に、とりわけアンダー世代にいか**にリーグ戦文化**を根付かせるかということは非常に大事である。【再掲】

- ・ 育成年代を各競技で取り合うのではなく、ある年代までは一緒に育てるような**共通プログラム**も必要ではないか。【再掲】
- ・ スポーツに興味がない、**苦手な子供達や保護者への対応**については、民間とも連携しながら、今、興味・関心を持っているものは何かといった視点からアプローチしていくことも大切である。既にスポーツに関わっている子供達に対しては、**ゴールデンエイジのマルチスポーツ**をどう進めていくか、**部活動に対する課題解決**等に取り組んでいくことが重要。
- ・ 全世代の国民が**ライフステージに合わせて運動・スポーツ習慣を確立**するための施策を実施する必要がある。人々の運動関連リスクを層別化して、各リスクに応じた内容を示すことが必要。【再掲】

○スポーツ団体、他の行政機関、地方公共団体、学校、民間事業者、研究機関等との連携・協力

- ・ ゴールデンスポーツイヤーズのレガシー推進組織として、**Sport in Life コンソーシアムのプラットフォームを有効活用**していくことが重要。
- ・ 社会が多様化する中、それぞれに分かれたものが連携・協力するというよりは、もはや一体化して、社会全体がスポーツに向かって**新しいプラットフォーム**をつくっていく必要が出てきているのではないか。【再掲】
- ・ 国レベルで関係省庁が連絡・調整をしているように、**地域においてもスポーツだけの枠組みではなく、様々な組織が連携を促進**させていくことが必要である。
- ・ **NF・スポーツ庁・JSC・日本スポーツ協会等、スポーツ界が一体となって力を結集**させることが必要。
- ・ 競技団体、スポーツ産業界、メディア、**IOC、JSPO、スポーツ庁等、それぞれの立場の役割は何かということが明確に示されていく**ことが重要である。
- ・ 草の根のスポーツの振興のためには、**都道府県や市区町村の体育・スポーツ協会を活性化**させていくことが大切。
- ・ 施策を現場に落とししていくためには、**都道府県のスポーツ団体がカギ**となる。地域に展開されているプロスポーツチームを巻き込んでいくことも重要。
- ・ 雇用・協賛にとどまらない、**様々な形での「企業×スポーツ」の関わり方**について展開させていくことが重要。
- ・ **医療関係者からの働きかけ（社会的処方）**を推進し、**無関心層**を取り込むべき。かかりつけ医の活用、健康・スポーツ医と運動指導士と行政の連携促進が必要。

○デジタル技術をはじめとした新技術やデータの活用

- ・ 第3期計画では、**デジタル技術を軸に新しいスポーツ界の価値**を生み出していくことが重要。トッ

プアスリートからグラスルーツへの展開も、デジタル技術を使えば、リアルタイムでオンラインでもできるようになり、地方協会も含め、様々な団体を結び付けていくことも可能となる。

- ・ **スポーツ団体自らが財源を生み出すイノベーションを創出**することが必要。そのために、経営力強化を図り、スポーツを通じた社会課題の解決による新たな価値の創造や、データ活用による民間企業と連携した新しいサービスの提供、パートナー企業とのスポンサーシップの拡大等を推進することが重要【再掲】。
- ・ **スポーツイノベーションの創出**には、デジタル技術の活用（AI、IoT）、コラボレーション（関係ステークホルダーとの連携）、ガバナンス（コンプライアンス）の3つの要素が重要。【再掲】
- ・ スポーツ団体の経営力強化の観点から、デジタルマーケティングなど、**データの活用**を積極的に推進していくべき。デジタル技術・データの活用に当たっては、目的を明確にしながら様々な関係者によるコンソーシアムを組むこと、ビッグデータの取得・デバイスの活用・解析・利用者へのフィードバック・専門家との連携等に関する事業プロトコルを構築すること、個人情報保護やセキュリティの課題を含めデータガバナンスを構築することが必要である。
- ・ **GIGA スクール構想や EdTech の活用、オンライン指導、大会のリモート開催、オンライン観戦等の促進**を戦略的に考えていくべきではないか。
- ・ **バーチャルスポーツ**（オンラインを使いながら離れていてもともにスポーツができるという形）を IOC が模索し始めたところであるが、こうした取組は、少子高齢化で人数がそろわない、コロナ禍で人々が集えない、といった様々な形に進展する可能性がある。

○多様な財源・資源の安定的な確保、戦略的・効果的な活用

- ・ **国、地方公共団体のスポーツ予算を安定的に確保**していくこと、**スポーツ振興くじの売上増**によって助成金を確保していくことは大切。
- ・ **ふるさと納税や企業版ふるさと納税、クラウドファンディング**など、新しい形での財源の確保方を積極的に取り組んでいくことによって、スポーツの在り方を変えていくべきである。
- ・ **スポーツ団体自らが財源を生み出すイノベーションを創出**することが必要。そのために、経営力強化を図り、スポーツを通じた社会課題の解決による新たな価値の創造や、データ活用による民間企業と連携した新しいサービスの提供、パートナー企業とのスポンサーシップの拡大等を推進することが重要【再掲】。
- ・ **スポーツイノベーションの創出**には、デジタル技術の活用（AI、IoT）、コラボレーション（関係ステークホルダーとの連携）、ガバナンス（コンプライアンス）の3つの要素が重要【再掲】。
- ・ **自己財源確保**のためのスポーツ界の仕組みが一層整備され、**スポーツの職域の拡大**が順次なされていく必要がある。こうしたことが、国民のスポーツの嗜好の拡大や需要に応えることにもつながっていくのではないかと。【再掲】
- ・ プロスポーツをはじめとして企業・団体が確実に収益性を生み、その利益を関係者や子供達に関係するという、**循環型サイクルを構築**することに取り組んでいくことで、確実な、多様な財源や資源

の安定的な確保につながるのではないか。【再掲】

- ・ゴールデンスポーツイヤーズのレガシー推進組織として、**Sport in Life コンソーシアムのプラットフォームを有効活用**していくことが重要。【再掲】
- ・発達段階にある**子供たちの運動・スポーツ**をどうするのかということは、これからのスポーツの在り方を決める主要な課題。学校段階に分かれた枠組みを超えたスポーツの**発達論に立った青少年スポーツの再編**が必要であり、その上で、指導者、施設や場、大会の問題等を捉えていく視点が必要である。【再掲】
- ・限られたリソースを配分する上では、**教育**を若いうちから行うということは非常に重要。
- ・**第2期計画の評価と反省**をしっかりと行い、継続すべきもの、見直すべきもの、やめるべきものをきちんと整理することが大切。特にうまくいかなかった施策、効果が薄かった施策や目標などについては思い切って取りやめて、その分を新規施策の展開に振り向けていくことが大切ではないか。

○各々の政策目標や具体的施策の達成状況に係る検証・評価

- ・エビデンスづくりとしての**モデル事業・社会実験**に取り組むべき。
- ・**各種調査**について、施策の目標に対してどう結びついていくのかというところが、十分検証されていないのではないか。
- ・**コロナ禍がもたらしている変化**をどう分析し、何らかの指標をもって、今の社会、そしてこれからを推しはかれるかということが、一つのポイントになっていくのではないか。

○地方スポーツ推進計画等の策定に当たっての指針としての活用

- ・具体的な施策については、国の計画が全て網羅するというのではなく、項目を整理し、**地方に委ねる部分もあっても良い**のではないか。
- ・地方はそれぞれ状況が異なり、全ての地方に合わせた計画を国が提示することは困難。非常に細かいものを作ることになりかねない。**各地方において計画を実行できるような仕掛け**を国の計画の中に入れておくことも大切である。とりわけ、各地方においては、実際に物事を進めていくに際して**人材力の限界**があると感じている。
- ・**地方でのスポーツを支える人材**は非常に高齢化し固定化しているという問題があり、これらをどのように**継承し、流動性を高める**のかという視点が重要。
- ・2040年には、現在、1978ある市区町村のうち、約半分の927の市区町村が消滅する可能性があるとしており、637の市区町村では一番多い年齢構成が90歳以上の女性という社会になることが指摘されている。こうした社会の中で、**地域のスポーツの在り方**をどうやっていくのかということを考えなければいけない。学校規模も小さくなる中で、学校スポーツ、団体スポーツ、障害者スポーツについて、人材面も含め、各地域でどれだけのことが対応できるのか。【再掲】
- ・**スポーツを通じて交流人口を増やしていくこと**や**スポーツの経済効果**というものは、地域に間違いなく力を与える。そうしたものを作り上げていく**新しいプラットフォーム**、人材問題も含めて作り

上げていくことは、まさに今、やらなければならない課題である。

- ・地域が今抱えている一番大きな課題は少子高齢化であり、地域の人々の絆、団結が薄れてきているが、こうした中で、**スポーツは地域を結びつける大きな一つの要因**となる。地域の人々が集まる場としてのスポーツの活用促進を考えていくべき。**社会関係資本（ソーシャルキャピタル）を構築**するという視点で考えることが必要ではないか。【再掲】
- ・多くの自治体は、学校部活動をはじめ**地域のスポーツ活動を継続していくための人材育成や、スポーツ施設の維持、更新の予算、財源**に頭を悩ませている。
- ・**人口減少時代においてスポーツインフラ**をどのように整えていくのか検討していくことが必要。スポーツインフラは地方と都心で格差がどんどん広がっているように感じる。
- ・オープンスペースで手軽に楽しめる**アーバンスポーツ**は、スポーツ施設がない、インフラが十分に整わないエリアであっても、経済効果が見込める地域活性化に役立つコンテンツとなるものであり、活用を図るべき。
- ・地方自治体のスポーツ推進計画への障害者スポーツに関する記述の充実が必要。**地方の審議会**において、様々な観点からバランスの取れた議論が行われるようにする必要がある。【再掲】
- ・草の根のスポーツの振興のためには、**都道府県や市区町村の体育・スポーツ協会を活性化**させていくことが大切。【再掲】
- ・施策を現場に落としていくためには、**都道府県のスポーツ団体がカギ**となる。地域に展開されているプロスポーツチームを巻き込んでいくことも重要。【再掲】

個別政策テーマ（案）

○スポーツ参画人口の拡大、スポーツによる健康増進、スポーツを通じた共生社会の実現

- ・人生 100 年時代にスポーツはどう貢献すべきか。健康や介護予防だけではなく、**スポーツの楽しみ方、意義**を考えていく必要がある。後期高齢者にも着目した人生 100 歳時代の体力保持と生きがいづくりが重要になる。【再掲】
- ・プレイヤーだけがスポーツと関わるのではなく、**多様な関わり方**があるということを広げていく必要がある。
- ・世の中の動きから見て、他のアミューズメントよりも進歩が少ない状態にあり、**これからの時代のスポーツ、これまで以上に魅力的なスポーツ**をどのように作っていくかということを見ると、新しい目で見て、自分たち自身を変えていく力を作っていくということが、より一層必要になってくるのではないかと思われる。【再掲】
- ・国民体育大会（国民スポーツ大会）等のスポーツ大会について、時代に応じて多様な方が参加しやすい、アミューズメント性も取り込んだスポーツイベントにリニューアルするとともに、これらのスポーツ大会を連携・協働させることにより、**ジュニア世代から高齢者まで切れ目なくスポーツを楽しむ**仕組みを確立していく必要がある。【再掲】
- ・スポーツ実施率だけで見えていくのは課題があるのではないか。**健康が維持されるようなレベルのスポーツ**を実施している人をどれくらい増やすかということが重要。
- ・全世代の国民が**ライフステージに合わせて運動・スポーツ習慣を確立**するための施策を実施する必要がある。人々の運動関連リスクを層別化して、各リスクに応じた内容を示すことが必要。【再掲】
- ・**医療関係者からの働きかけ（社会的処方）**を推進し、**無関心層**を取り込むべき。かかりつけ医の活用、健康・スポーツ医と運動指導士と行政の連携促進が必要。【再掲】
- ・**医療と連携した地域における運動・スポーツの習慣化の実践**を全国規模で展開することが必要。運動実施者と運動環境・専門家のミスマッチを解消することが必要。
- ・障害者スポーツは、その**特性を踏まえた丁寧な分析**が必要。パラスポーツ団体の運営は、業務量と責任に見合ったものではなく、後継者育成等において課題がある。
- ・障害者スポーツについて、都市部やトップアスリートへの支援等、飛躍的に進んだ部分もあるが、**地方やグラスルーツの部分はまだまだ不十分**であり、逆に格差が拡大した側面もある。地方自治体のスポーツ推進計画への障害者スポーツに関する記述の充実が必要。
- ・**インクルーシブなスポーツ界**をどう作るかという視点が重要。スポーツ施設について障害者が利用できる割合を 100% とすべき。学校体育を見学する障害児を 0 にすることを目標として掲げるべき。【再掲】
- ・障害者にスポーツの機会が提供されることによって、**障害者の社会参画**につながる。
- ・東京 2020 大会のレガシーの一つは**共生社会**である。様々な差別をなくし、多様性を確保しながら、共生社会を実現していくことに、スポーツ界が率先して取り組んでいくことが必要。【再掲】

- ・ **多様性と調和**、ダイバーシティとインクルージョンという観点が重要である。【再掲】
- ・ **多様性の前提となる違いを意識した計画**としていくことが大切。【再掲】
- ・ 共生社会を実現していく上で、**アスリートがその賛同者になるという力**は非常に大きい。

○地域スポーツ環境の整備・充実

- ・ 運動部活動の学校から地域への移行を見据えて、**地域スポーツクラブという大きな枠組み**へのスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、中学校運動部活動の融合を進めていくことが重要。
- ・ **指導者の在り方や質の向上、学校体育施設や社会体育施設の有効活用**は優先度の高い課題。**雇用形態の在り方**に関しても検討していくことが必要。
- ・ 草の根のスポーツの振興のためには、**都道府県や市区町村の体育・スポーツ協会を活性化**させていくことが大切。【再掲】
- ・ 施策を現場に落とししていくためには、**都道府県のスポーツ団体がカギ**となる。地域に展開されているプロスポーツチームを巻き込んでいくことも重要。【再掲】
- ・ **地方でのスポーツを支える人材**は非常に高齢化し固定化しているという問題があり、これらをどのように**継承し、流動性を高める**のかという視点が重要。【再掲】

○学校体育、運動部活動改革をはじめ子供のスポーツ機会の充実、体力の向上

- ・ 発達段階にある**子供たちの運動・スポーツ**をどうするのかということは、これからのスポーツの在り方を決める主要な課題。学校段階に分かれた枠組みを超えたスポーツの**発達論に立った青少年スポーツの再編**が必要であり、その上で、指導者、施設や場、大会の問題等を捉えていく視点が必要である。【再掲】
- ・ スポーツが嫌いな人を減らすというのは、自己概念が形成されている中学生年代から取り組むのでは難しく、**幼稚園とか低学年の時から**の取組が重要であり、この時期に早期完成型の指導が行われてしまわないように留意する必要がある。小学生年代は**暴力暴言**の件数が非常に多く、これによってバーンアウトさせてしまっている状況があり、このことについてしっかりと対応していかなければならない。
- ・ 小学生年代はとにかく**スポーツは楽しい**と思えるような、**継続できるような環境づくり**が大切。トーナメント制のシステムでは、勝利至上主義の下で怒りが生じやすく、能力の高い選手だけが参加でき、子供たち全員が楽しめない、身体能力や運動能力が低い子供たちは取り残されてしまう。【再掲】【再掲】
- ・ ドロップアウト、バーンアウトしてしまうことのないように、**卒業のないスポーツライフ**をいかにつくっていくか。日本のスポーツ文化に、とりわけアンダー世代に**いかにリーグ戦文化**を根付かせるかということは非常に大事である。【再掲】
- ・ スポーツは体力だけでなく、**非認知能力**が身につくものであり、こうした点をアピールしていくことが大切。

- ・**スポーツに興味がない、苦手な子供達や保護者への対応**については、民間とも連携しながら、今、興味・関心を持っているものは何かといった視点からアプローチしていくことも大切である。既にスポーツに関わっている子供達に対しては、**ゴールデンエイジのマルチスポーツ**をどう進めていくか、**部活動に対する課題解決等**に取り組んでいくことが重要【再掲】。
- ・育成年代を各競技で取り合うのではなく、ある年代までは一緒に育てるような**共通プログラム**も必要ではないか。【再掲】
- ・健康増進のためのリテラシーや健康と運動との関わりについては、**体育科、保健体育科で系統的に学習**しており、その**価値の再確認・アピールや授業の充実**が必要。体育を通じて、子供たちに全力を出す経験をさせることや他者との関わり合いを学ばせることは近年ますます重要になっている。中学生は忙しく、数値目標を掲げてても現実的に数値を上げていくことは難しい、小学生をターゲットに数値目標を考えていったらどうか。
- ・子供たちが**放課後運動する場所の確保**が課題。放課後児童クラブや放課後子供教室の活用が必要。
- ・指導者の確保が難しいところもあれば、熱心に指導している教員がいるところもあり、部活動改革については、**地域の状況に応じたハイブリッドな形**を進めていくのが良いのではないかと。部活動改革や大会の精査に当たっては、各競技団体との関係を見直すことも必要。
- ・運動部活動の学校から地域への移行を見据えて、**地域スポーツクラブという大きな枠組み**へのスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、中学校運動部活動の融合を進めていくことが重要。【再掲】
- ・**指導者の在り方や質の向上、学校体育施設や社会体育施設の有効活用**は優先度の高い課題。**雇用形態の在り方**に関しても検討していくことが必要。【再掲】
- ・草の根のスポーツの振興のためには、**都道府県や市区町村の体育・スポーツ協会を活性化**させていくことが大切。【再掲】
- ・施策を現場に落とししていくためには、**都道府県のスポーツ団体がカギ**となる。地域に展開されているプロスポーツチームを巻き込んでいくことも重要。【再掲】
- ・コーチを派遣する等、**部活動改革に関し、中央競技団体が地方自治体等と連携して取り組んでいくことが重要**。
- ・**GIGA スクール構想、EdTech の活用、オンライン指導、大会のリモート開催、オンライン観戦等**を促進していくべきではないか。【再掲】

○スポーツに関わる人材の育成と活躍の場の確保

- ・スポーツに関わる様々な人材を大きな視点でとらえ、**人材育成のグランドデザイン**をつくって、取り組んでいくことが重要。
- ・プレイヤーだけがスポーツと関わるのではなく、**多様な関わり方**があるということを広げていく必要がある。【再掲】
- ・選手に加えて、指導者や審判、専門スタッフ等のスタッフ・関係者の**キャリア支援**が課題。こうした方々が、現役時代に培った経験を社会に還元しながら、サステナブルに活動できる環境の整備が重

要になってくる。

- ・ **アスリートキャリア**の定義づけ、整理が必要ではないか。
- ・ **現役時代からアスリートのキャリア開発支援**が重要。アスリートの知見・能力の活用が必要。
- ・ **心理の専門家の人材育成**に取り組んでいく必要がある。スポーツ心理を活動の現場に落とし込んでいくための仕組み作りを産学官連携で進めていくことが必要ではないか。
- ・ 多くの自治体は、学校部活動をはじめ**地域のスポーツ活動を継続していくための人材育成や、スポーツ施設の維持、更新の予算、財源**に頭を悩ませている。【再掲】
- ・ **地方でのスポーツを支える人材**は非常に高齢化し固定化しているという問題があり、これらをどのように**継承し、流動性を高める**のかという視点が重要。【再掲】
- ・ 地方はそれぞれ状況が異なり、全ての地方に合わせた計画を国が提示することは困難であり、非常に細かいものを作ることになりかねない。**各地方において計画を実行できるような仕掛け**を国の計画の中に入れておくことも大切である。とりわけ、各地方においては、実際に物事を進めていくに際して**人材力の限界**があると感じている。【再掲】
- ・ **指導者の在り方や質の向上**は優先度の高い課題。**雇用形態の在り方**に関しても検討していくことが必要。【再掲】
- ・ コロナ禍においては**国際大会の開催**に向けて、新たな対応が求められる中、**NFの中で多くの人材が育った**。

○スポーツ施設やオープンスペースなどスポーツをする場の充実

- ・ 身近な運動施設としての**学校体育施設の開放の促進**が必要。学校体育施設や社会体育施設の有効活用は優先度の高い課題。【再掲】
- ・ 多くの自治体は、学校部活動をはじめ**地域のスポーツ活動を継続していくための人材育成や、スポーツ施設の維持、更新の予算、財源**に頭を悩ませている。【再掲】
- ・ **人口減少時代においてスポーツインフラ**をどのように整えていくのか検討していくことが必要。スポーツインフラは地方と都心で格差がどんどん広がっているように感じる。【再掲】
- ・ オープンスペースで手軽に楽しめる**アーバンスポーツ**は、スポーツ施設がない、インフラが十分に整わないエリアであっても、経済効果が見込める**地域活性化に役立つコンテンツ**となるものであり、活用を図るべき。【再掲】

○スポーツの成長産業化、スポーツを通じた地域振興・地域活性化

- ・ **スポーツ団体自らが財源を生み出すイノベーションを創出**することが必要。そのために、経営力強化を図り、スポーツを通じた社会課題の解決による新たな価値の創造や、データ活用による民間企業と連携した新しいサービスの提供、パートナー企業とのスポンサーシップの拡大等を推進することが重要。【再掲】
- ・ **スポーツイノベーションの創出**には、デジタル技術の活用（AI、IoT）、コラボレーション（関係ス

テークホルダーとの連携)、ガバナンス(コンプライアンス)の3つの要素が重要。【再掲】

- ・スポーツ団体の経営力強化の観点から、デジタルマーケティングなど、**データの活用**を積極的に推進していくべき。プロフェッショナル人材を集めるためには兼業・副業を進めることが重要。【再掲】
- ・**自己財源確保**のためのスポーツ界の仕組みが一層整備され、**スポーツの職域の拡大**が順次なされていく必要がある。こうしたことが、国民のスポーツの嗜好の拡大や需要に応えることにもつながっていくのではないか。【再掲】
- ・オープンスペースで手軽に楽しめる**アーバンスポーツ**は、スポーツ施設がない、インフラが十分に整わないエリアであっても、経済効果が見込める地域活性化に役立つコンテンツとなるものであり、活用を図るべき。【再掲】
- ・プロスポーツをはじめとして企業・団体が確実に収益性を生み、その利益を関係者や子供達に関係するという、**循環型サイクルを構築**することに取り組んでいくことで、確実な、多様な財源や資源の安定的な確保につながるのではないか。【再掲】
- ・**スポーツを通じて交流人口を増やしていくこと**や**スポーツの経済効果**というものは、地域に間違いなく力を与える。そうしたものを作り上げていく**新しいプラットフォーム**、人材問題も含めて作り上げていくことは、まさに今、やらなければならない課題である。【再掲】
- ・地域が今抱えている一番大きな課題は少子高齢化であり、地域の人々の絆、団結が薄れてきているが、こうした中で、**スポーツは地域を結びつける大きな一つの要因**となる。地域の人々が集まる場としてのスポーツの活用促進を考えていくべき。**社会関係資本(ソーシャルキャピタル)を構築**するという視点で考えることが必要ではないか。【再掲】
- ・地方自治体において市民の様々なスポーツ活動に対する取組や**国際大会の誘致**活動を行っている。**国際大会の開催**を通じて、子供たちに多くの希望や感動を与えることはもとより、**そのレガシーを街づくりの中に生かしていく**という視点が重要である。
- ・地域スポーツに関して幅広く関係団体を取りまとめる推進組織として、**スポーツコミッションの再構築**が必要ではないか。
- ・草の根のスポーツの振興のためには、**都道府県や市区町村の体育・スポーツ協会を活性化**させていくことが大切。【再掲】
- ・施策を現場に落としていくためには、**都道府県のスポーツ団体がカギ**となる。地域に展開されているプロスポーツチームを巻き込んでいくことも重要。【再掲】

○スポーツを通じた国際社会の調和ある発展への貢献

- ・世界、アジアの中で、**日本のスポーツから何を発信**できるのか、発信すべきか。
- ・**スポーツを通じた国際交流、国際貢献活動とそのための人材育成**は継続すべき。これは日本の国際社会におけるプレゼンスを高めていく上でも非常に有効である。【再掲】
- ・スポーツを通じた国際交流、相互理解、国際貢献に対して、各NFを巻き込んで取り組んでいくことが必要であり、**スポーツに関する国際人材の育成**が必要。

- ・日本のスポーツコンテンツ、プログラム、指導等については、**海外に誇れる非常に重要な要素**である。
- ・環境保護や環境保全とスポーツ、カーボンニュートラルの社会の中でのスポーツ等、**SDGs の視点**での検討が必要である。【再掲】

○国際競技力の向上、クリーンでフェアなスポーツの推進

- ・アスリートが果敢に己を信じて、仲間を信じて、それぞれの夢にチャレンジできる、その**環境**をつくることが大切。
- ・トップアスリートの影響力は非常に大きく、いかにして様々な形でスポーツに関わる人たちの**ロールモデル**にしていくことができるかということに取り組んでいく必要がある。競技成績だけでなく、**人間性**を高めることが重要である。
- ・トップアスリートの活動が、目に見える形で**国民に還元**されるような取組を進めていくことが重要。スポーツの価値を高め、スポーツを通じて社会の課題解決に寄与するということに対して、それぞれのスポーツ団体がしっかりと取り組んでいかなければならない。
- ・**ハイパフォーマンススポーツとグラスルーツスポーツとの好循環**が重要である。ハイパフォーマンススポーツにおいては、メダルの数等が指標になりがちであるが、そこで得られた知見等を、グラスルーツの様々なところに反映されたことが、国、地方、民間において評価されていくようなことを示していく必要がある。
- ・アスリートの権利を大切にしていく必要がある。【再掲】
- ・NF・スポーツ庁・JSC・日本スポーツ協会等、**スポーツ界が一体となって力を結集**させることが必要。【再掲】
- ・**夏季・冬季、オリ・パラ一体**となった連携強化が重要。
- ・ポテンシャルのあるタレントを発掘し、育成そして強化していくという**パスウェイの構想**が必要
- ・パラ競技については、障害に応じた**選手の適性判断と適切な助言**が重要であり、クラス分けの専門家が必要。
- ・強豪国の**情報収集・分析**及び医科学情報、パラ競技ならではの用器具の**研究開発**の充実が必要。
- ・**心理の専門家の人材育成**に取り組んでいく必要がある。【再掲】
- ・AIやIoT、センシングなどの技術を組み合わせることによって、競技力向上のための要因を**科学的に分析し、科学的に指導方法を改善**していくことが可能であり、そうした点に国としても取り組んでいくことが必要。
- ・**ガバナンス、コンプライアンスの強化**をさらに求めていくことが必要。とりわけ、アスリートの権利保護という観点からは、自動応諾条項の採択の推進が必要。
- ・スポーツ産業やプロスポーツの拡大に伴い、**アスリートや試合がクリーンであることを担保し、対外的に示せるようなシステム**が今後必要になってくるのではないかと。
- ・**スポーツの価値教育**という基盤に立って、スポーツ・インテグリティの問題を扱っていく時期に来

ているのではないか。インテグリティ教育、アンチドーピング教育の普及・啓発が重要。【再掲】